

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
1	障害福祉分野については、道の保健医療福祉圏域で言えば二次圏域ということで5市5町が圏域として繋がりがあがる。また、新たに地域生活支援拠点等の整備について議論しているが、相談支援事業の機能を複数の地域で分担して強みを分け合って、弱みを連携の中で抑える議論をしている。			【その他】 各分野において、それぞれの市町の強みを生かして圏域全体の機能強化を図ることを基本に進めていきます。	懇談会①
2	教育の分野という観点から、 <u>子どもの時から郷土愛を持つ</u> ような取組を考えることが必要。			項番42において整理	懇談会①
3	消費者協会について、滝川市は広域の生活相談体制を担っている。都会や田舎は関係なくなってきたが、消費者相談は時代の流れとともに様々で、単独ではなく広域になったことで、相談の内容が見えてきたということもある。消費者相談から見てもそう思うので、様々な分野について広域で行うことは非常に大切だと思う。是非、そのように進んでほしい。			【その他】 各分野で効果的な連携を目指します。	懇談会①
4	少子高齢化は世界一進んでいて、一極集中にも問題があり、政府があえて制度を立ち上げて音頭とりをしたと考えている。5市5町の中で定住してもらう条件を考えると、思い浮かぶことは、この圏域には大きな産業が見当たらないということ。しかし、一番大事にしなければならないのは、 <u>地産地消をベースにした農業関係</u> と考えている。近隣市町村を見ると、先代が苦勞して守ってきた立派な土地がどんどん空いていて、空き家も増えている。そのような所に定住するような構想は持てないものかと思う。 町連協の会長をしているため、高齢者の意見を伺うが、意見を垣間見ると、今後、医療関係は難しいと思うが、 <u>福祉関係は5市5町に分散しており、安心・安定した暮らしをするためには、合同・共同で方針をだしていくべき</u> と考えている。高齢者は動けなくなるまで地元で生活したいと考えているようなので、今後、 <u>高齢者対策というのが課題</u> になってくるので、考え方をだしていこうと考えている。			項番46において整理	懇談会①
5	座長からもお話があったとおり、人口減の中で今までどおりにはいかない、何かを残さなければならないとなると、医療について言えば、 <u>救命救急センターである砂川市立病院をいかに残すか、集約していくか</u> ということが、地域が救急医療を残していくうえで大切なことだと思う。		医療		懇談会①
6	資料18ページの2.福祉 (1)障がい者福祉の推進 イ 地域活動支援センター事業及び相談支援事業というのがあるが、中空知圏域は広域で行っている。ただし、 <u>菅別市が相談支援事業について外れていて、障がい者に対する相談支援事業が立ち上がっていない</u> 。単独で立ち上げることを検討しているとのことだったが、小さな単位で行うのは難しくなると思うので、今後、 <u>広域で広く盤石にやれば良い</u> と考えている。		福祉		懇談会①

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
7	若い人がいると具体的な困っている意見が出ると思う。若い人の代弁ができれば良いと思い、社会教育の中で学校教育等に関係しているので勉強させていただきたい。5市5町は他地域と比べると <u>ネットワークを結びやすい条件</u> と感じている。札幌や旭川では公共施設については利用者が多く利用できないと聞いているが、砂川市もそうだが、今までは各サークルで週一回の利用だったものが沢山利用できるようになっている。 <u>施設は沢山あり、人口密度が少ないので利用しやすい場所が沢山ある</u> 。足というかフットワークを整備しながら、あるいはできる人が出向くことで、 <u>人が少ないことを悲観しないで逆手にとっていける</u> のではないかと考えている。	自治体間連携、地域特性、地域の強み		【修正】 将来像に反映 (自治体間連携、地域特性、地域の強み)	懇談会①
8	農商工連携をキーワードにして考えていければと思う。6市町の会議所の専務理事が集まって、連携を検討しているが、そことうまく連携していければ良い。			【その他】 商工会議所・商工会連携の動向についても、情報交換しながら進めます。	懇談会①
9	将来的には <u>バスセンターやバスステーションのハブ化</u> を検討していく必要がある。そのようなことから地域に対する公共交通の確保を図っていけるのではないかと考えている。			項番44において整理	懇談会①
10	<u>5市5町それぞれ特徴があり</u> 、具体的な問題に入った場合、解決がかなり厳しくなると思う。そのような時に我々がどういう話をしていったら良いか、勉強しながら進めていきたい。	地域特性		【修正】 将来像に反映 (地域特性)	懇談会①
11	5市5町は全てが人口減少、さらに少子高齢化が進んでいるが、農商工連携や観光、医療について協議を進めていきたい。芦別には市立病院もあるが、砂川や滝川に行く方が多く、また、医療関係の連携をしなければ医師不足の問題もある。商工業についても人口減少の傾向から商工業者も減少している。商工会議所連携も含めて連携を進めていきたい。			【その他】 商工会議所・商工会連携の動向についても、情報交換しながら進めます。	懇談会①
12	子どもから高齢者まで安心して生きがいと潤いの持てる生活を送ることができるようにとあるが、 <u>65歳以上の高齢者割合の道内上位10位に4市町が入っている</u> 。福祉の部分に子どもや障がい者に関する記載があるが、 <u>高齢者対策</u> が抜けているというか薄らいでいる。65歳以上が40%を超えるようなところが4市町もあることから、高齢者対策を練らないと居住権を得られないのではないかと考える。今回のビジョンとなるのか、来年のビジョンとなるのかは別として、今後の課題に含めることとし、将来像に対する意見として出したい。	地域特性、高齢化対策		【修正】 将来像に反映 (地域特性、高齢化対策)	懇談会①
13	各地域、状況が悪いながら、頑張っているのを承知しているが、お互いの地域がわからないこともあると思う。議論にあたってはその辺の認識をしながら、 <u>各地域の特色を生かした議論</u> のあり方ができないかと思っている。それぞれが思いを言うだけではなく、譲るべきところは譲り、 <u>各地域の特色を生かせるような計画</u> になっていくことを望んでいる。	地域特性		【修正】 将来像に反映 (地域特性)	懇談会①

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
14	<p>高齡化が進み高齡化率が43%ということで、老人クラブと町内会の役員を兼務しなければならない状態に陥っている。また、町内会も小さくなり合併をしなければならない状況になっている。</p> <p>高齡化率が高く、人口が減り、幼稚園の入園者は6名しかいないという現状で、これから子どもがいなくなり、若い人は都会に出ていく中、ビジョンが現実うまくいくのか懸念している。年寄りばかりになってどこに行きたい時に、シャトルバスか何かが無ければならないのではないかと考えている。さらに、残念なことに高齡者対策が入っていない。意見を出しながら拡大して行ってほしい。</p>	地域特性、高齡化対策		<p>【修正】</p> <p>将来像に反映 (地域特性、高齡化対策)</p>	懇談会①
15	<p>以前、行政にいたため、行政の立場からすると、教育から福祉からすべからく限られた財源で、市町村の持っている力の範囲の中で進めることになる。産炭地は、かつては潤っていて、全てについて問題なく行われてきたが、少子高齡化が進み、まちの主な機能が存続できなくなりつつある。このような時に、今回のような近隣の大きなまちがさらに発展して行って、我々が享受できるような安心して暮らせるまちの一端を担っていかなければ、住んでいる地域に格差ができてしまう。それぞれの地域の特色をできるだけ残しつつ、計画をつくっていただければと思っている。</p> <p>行政レベルでなく市民レベルから考えたときに、日常生活圏は地元含め、滝川、砂川、さらには旭川、札幌まで出ていくのが現状の中で、例えば広域下水道や水道企業団等、各市町が助け合っているものもあるので、再度見直ししながら組み立てていければと思う。</p>	地域特性		<p>【修正】</p> <p>将来像に反映 (地域特性)</p>	懇談会①
16	<p>教育、食、医療等、子ども達が住みよいまちになれば良いと考えている。</p>			<p>【その他】</p> <p>子ども達にとっても住みよい圏域づくりとなるよう進めます。</p>	懇談会①
17	<p>保険事業、水道、消防等、広域連携を行ってきているが、イメージ的には対等、お互いに助け合っというイメージだったが、定住自立圏構想は中心市というのがあって、ビジョンというの、砂川、滝川を中心としたビジョン策定となっている。今まで広域連携でうまくいっていたものが、中心市を中心にしてという、今までと違うことを考えなければならないのかという印象。</p> <p>また、産業振興については、これからは6次化ということが必要だと思う。商工と連携して商品開発ができればと考えている。</p>	産業振興		<p>【修正】</p> <p>将来像に反映 (産業振興)</p>	懇談会①
18	<p>この町で子供を産み育てるというより、この町で教育したいかを考えると、学校教育、社会教育はあるが、幼児教育が見当たらない。保育所の記載はあるが、幼稚園にしても、認定こども園にしても、親が見えるような施設等を具体化できれば良いと感じた。</p>			<p>項番39において整理</p>	懇談会①
19	<p>人口減が顕著で、この先5年先どうなるかという状況が続いている。後継ぎの問題や高齡者の問題があり、買い物難民というような状況が多く出てくる。他の地域と連携をとれるような方向性を出していければと考えている。</p>	地域特性、高齡化対策		<p>【修正】</p> <p>将来像に反映 (地域特性、高齡化対策)</p>	懇談会①

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
20	高齢者福祉事業に携わっているが、圏域の将来像を考えていくと、 <u>年をとって一人でも安心して、死ぬまでその地域で暮らしていけるような圏域</u> になれば良いと思っ ている。具体的取組には、 <u>高齢者対策</u> がないのが残念だが、この地域がお互いに 連携しながらどういう地域を目指していくかという中で、意見を出せればと思っ ている。	高齢化対 策		【修正】 将来像に反映 (高齢化対策)	懇談会①
21	人口減の最先端をいっているのが農業で、1/3とか1/4の人口になっている。 <u>農業と して小さな面積では立ち行かなくなってきた</u> というのと、 <u>子ども達が親の職業を継 がなくなった</u> というのが大きな要因。 住むために必要なものを考えると、医療、福祉、教育ではなく、まずは所得だと思 う。 <u>産業がないと生活していけない</u> 。産業があつて生活をして、生活していくため に福祉が必要なのか、教育が必要なのかとなる。中空知の中で産業としてやってい けるのは農業と公共事業だが、公共事業は少なくなったので、あとは年金。これら が中空知が外部から所得を得る要因。この所得をどうやって分配していくのか、新 たな職業とどう結び付けていくのかということが定住に繋がっていく。町にはコン ビニがないため若い人が住まない。また、農業しか産業がないので住まない。ど のように所得を得ていくのかが重要だと思っている。	産業振興		【修正】 将来像に反映 (産業振興)	懇談会①
22	定住については、美瑛農協は観光資源であるトマトの生産が10億あるが、その半分 は新規就農者が賅っている。新規就農者は観光資源があるから定住したいというの と、住むところと冬場の仕事に対する行政の支援がある。 <u>住むところが提供でき、 農業でお金を稼ぐことができれば定住につなげていける</u> と思っている。農業につい て言えば、平成10年に中空知の3つの農協が合併したが、農家の減少については、平 成10年には当組合には1000戸の農家があつたが今は600戸を切っている。また、野菜 の生産規模拡大をしていかなければならないが、野菜をつくる人がいない。かつて は20億の野菜の生産があつたが、今は7億まで減少している。メロンで有名にしたい 等考えるが、作る人がいない。担い手がないというのが切実になっている。			項番33において整理	懇談会①
23	地域防災マスター連絡会議は平成23年に28名で設立した。今は36名が所属してい る。防災士は自助努力による災害時の活動、地域防災マスターはボランティアによ り災害時には地域の声掛けのキーマンになるもので、研修を受けて北海道知事の認 定を受けている。地域的には、新十津川が大変多い。防災の政策分野においては公 助の部分は良いと思うが、万が一起きたときに公助を待つよりは自分の身は自分で 守るという組織づくりを5市5町でやっていければと思っている。			【その他】 地域防災に関する現状および自助につい て、認識しました。	懇談会①
24	中空知広域圏は30年か40年前からあるが、 <u>農業あり、商業あり、産炭地あり</u> という 中で、10市町でよく圏域をつくっていると思っている。今日皆さんの意見を聞くと 色々あると思ったが、 <u>今までも連携事業や共同事業はやれることは沢山取り組ん できた</u> と思うので、定住自立圏構想はやりやすいのかという気がしている。洗い出し を会議でやっていけば最後には良い案がまとまると思っている。	地域特 性、 自治体間 連携		【修正】 将来像に反映 (地域特性、自治体間連携)	懇談会①
25	中空知の商工会は、道の政策により広域連携を既に行っており、雨竜と新十津川と 江部乙が一つ、浦臼と奈井江も別な連携を組んでいる。既にやっているものを充実 させていただき、見直しがあればどんどん進めていければ良いと思っ ている。			【その他】 商工会議所・商工会連携の動向につい ても、情報交換しながら進めます。	懇談会①

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
26	資料を事前にいただき、将来像、具体的取組の原案を示されているが、既存のものにとられ過ぎたのかなという感想。5市5町それぞれ歴史があり、色々な連携をしてきて、既存事業があり、こういう書き方にならざるを得なかった部分もわかるが、ビジョンとして前向きなエキスを後2回で入れられるかなと思っている。皆さんの意見を聞いていて、人口が減っても、高齢者が増えても、この地域に住みたいと思っているという話もあったので、 <u>安全とか安心とかの観点</u> 等、この地域として押し出すべきものは強く訴えたらどうかと思った。 昨年、東京滝川会総会に出席した際に、滝川で思い出すことや良さというのを聞いたが、滝川に限った話ではないが、東京の人は地震や集中豪雨等、生存に対する不安を話していた。 <u>中空知は大きな地震や大きな水害はほとんどない</u> という、我々があまり感じないことを東京の人たちは思っていると感じた。最近、北海道に本社機能を移すような具体的な事例もあるので、地域の良さをビジョンの中で訴えていければと考えている。			項番43において整理	懇談会①
27	・人口減少という問題に正面から向かっていかなければ、次世代につながっていく政策というのが成立しえない状況になっている。 <u>成長する・人口が増えるという中でなされてきた政策のあり方を見直していく時代</u> に来ている。	その他		【修正】 将来像に反映 (その他)	懇談会①
28	<u>中空知はゆとりのある環境があって大変魅力的な地方の良さ、魅力をしっかり発信していく努力</u>	地域の強み		【修正】 将来像に反映 (地域の強み)	懇談会①
29	<u>石炭という産業で栄えたまちであるが故の石炭産業が衰退していった後の激変というのが、他地域と比べると人口減少、さらに高齢化にも向き合う厳しさがある。逆に言うと他の地域よりも人が減っていく状況、地域が衰退していく状況を経験されている所もある。そういう経験をつなぎ、活かしながら高齢化に向き合う施策として、特に今回のテーマは広域的な連携という仕組みのなかでサービスを提供</u>	地域特性、 高齢化対策		【修正】 将来像に反映 (地域特性、高齢化対策)	懇談会①
30	中空知という地域は広域連携については道内で一番経験の豊富な所だと感じている。ある程度のことはやっているだけに定住自立圏の構想づくりは難しい。これだけの経験がある地域だからこそ、定住自立圏という新しいメニューの中で、新しい挑戦、取組をしていくんだというのは出していただきたい。			【その他】 定住自立圏構想を進めていく上での考え方として参考にします。	懇談会①
31	今回の定住自立圏というのは行政である市町が一緒になってどういう新しい政策展開をしていくかということだが、ベースにある人々が生活をし、生活をしていくための基盤である産業、そこから生み出される雇用というのがなければ安定した地域社会にはならない。農業であり、建設業であり、色々な話があったが、その部分は商工会議所の横との連携と同時に、その中で行政というのができる役割は何なのかというのを改めて振り返ってみる必要がある。			【その他】 定住自立圏構想を進めていく上での考え方として参考にします。	懇談会①

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
32	広域連携を進めていくうえで一番大事なポイントは自分の地域以外の地域に対する理解、それをどう深めていくかということ。どうすれば良いかというと、相互理解するような仕組み、場、機会をつくること。10市町の職員がビジョンを契機に相互交流を進め、他の地域をわかった職員が自分のまちの行政を担うことで、将来的にはこの地域全体で色んな行政サービスを提供したり、政策展開をしていくことに大きく繋がっていく。10年、20年経つとかなり変わってくるのではないかと思う。長い視野で取り組んでいくことも大事。			【その他】 定住自立圏構想を進めていく上での考え方として参考にします。	懇談会①
33	【「圏域の将来像」について】 高齢者の増加による医療・福祉は重要な課題だが、地域が望むのは <u>活性化</u> であり、 <u>若年層が働ける環境</u> が無ければ地域が衰退していくのは当然であり、イベントよりも定住に向けた具体策であり、 <u>子育て環境が重要</u> 。即効策は無いが、 <u>安定した産業は農業であり、二次、三次産業への波及</u> が望まれる。 <u>住居（空家対策）、冬期間の仕事（除雪）</u> も含めて地域で考えていく方向が望ましい。	産業振興 福祉、 雇用促進、 子育て環境、 人口定住		【修正】 将来像に反映 (産業振興、雇用促進、子育て環境)	意見集約シート
34	【その他、意見について】 子育ての環境、 <u>高校の配置のあり方</u> も広域圏で提案されたい。行政の無駄が多い。		教育		意見集約シート
35	【その他、意見について】 ～とにかく、5市5町を知りつくしましょう～ 原原案…5市5町の概況をどの程度把握しているのかチェックしてみました。当市を除いて82の○項目の33が知らなかったです。（名前は知っていても行ったことがない・食味していない）私の周り（7名）も似たようなものでした。 「特産品・グルメ」・・・49のうち20が知らない、食べていない。 「観光・名所」・・・33のうち13カ所言っていない。 以上を踏まえて、 *圏域の住民に上記内容のアンケートを実施。（その数字を分析することで意外な発見があるかも知れません） * <u>専用バス「中空知知っ得号」</u> で季節ごとの視察研修。（各学校・町内会・各種団体・他市町村等の視察研修交流なるものと考えてみたら如何でしょうか。 例えば、1回1市町村を訪問、中学生なら研修先の中学生と様々な意見交換、そして訪問した地域にも来てもらい交流する中で5市5町が仲良く楽しく暮らせる夢を語らせたり希望をもたらず内容にすれば、時間はかかっても何か得るものが確実にありそうです。 また、性別、年代別、職種別の交流も双方の思いや期待するもの等が圏域の将来像に大きな役割を果たすのではないかと思います。		人材育成	【その他】 アンケートによる分析については、今後の参考にします。	意見集約シート

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
36	<p>【圏域の将来像】 <u>高齢になっても、一人で安心して暮らしが送れる地域を目指す。</u></p> <p>「生活機能の強化に係る政策分野」に「障がい者福祉の推進」と「保育所広域入所事業」が盛り込まれているが、全人口の4割弱を占めている高齢者についての具体的取組を新たに加えてはどうか？ 高齢者が安心して暮らしている姿を目の当たりにすることでその地域で住みたいという魅力に繋がると思います。<u>健康面や精神面の不安・リスクを少しでも軽減する支援ネットワークを構築する。</u>（例えば、<u>栄養管理や体調管理を目的に学校給食センターを活用した配食サービス</u>や<u>冬場の除雪負担を軽減するための圏域内でのボランティアの連携や業務委託</u>など。） 高齢者については、制度として「地域包括ケアシステム」があり、その面では重複する面もあると思いますが、制度を補完して生活支援の充実を図り、暮らしやすさを実感することが地域の活性化の源となると考えます。</p>	高齢化対策	福祉	【修正】 将来像に反映 (高齢化対策)	意見集約シート
37	<p>【その他、意見について】 「原原案」については特にはありませんが、この共生ビジョンが将来的に自治体の合併に向かう可能性を否定しませんが、効率化や利便性を求めた結果、一極集中の弊害だけが残らないような研究・検討が必要と思います。</p>			【その他】 定住自立圏構想は行政体はそのまま圏域を形成し、協定により連携や協力を図るもので合併とは異なる新たな地域づくりとなっています。圏域全体で役割分担をしながら魅力ある圏域づくりとなるよう進めます。	意見集約シート
38	<p>【圏域の将来像】 障がいのある方たちが、中空知圏域において安心して安全に安定して生活を送ることの出来るセーフティーネットの構築</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <u>中空知圏域自立支援協議会の設置</u>について 中空知圏域共同で設置 2 第4期障害福祉計画に係る国の基本方針の見直しについて ◇基本方針の見直しの主なポイント (2) 成果目標に関する事項 ③<u>地域生活支援拠点等の整備</u> 障害者の地域生活を支援する機能の集約を行う拠点等を、各市町村又は各圏域に少なくとも1つを整備。 ※拠点を設けず、地域において機能を分担する「面的整備型」も考えられる。 		福祉		意見集約シート

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
39	<p>【圏域の将来像】</p> <p>◎福祉～<u>高齢者に関わる取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・老老、独居者支援、認知症に関わる取組、介護職員の確保と育成 <p>◎教育～<u>就学前児童（幼児期）の教育・保育（養護）の充実（福祉との一体化）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援～幼稚園（上砂川町は無）、認定こども園 ・子育て支援～ファミリー・サポートセンター、病児・病後児保育、企業内保育の推進 ※福祉 	高齢者対策、子育て環境		<p>【修正】</p> <p>将来像に反映 （高齢者対策、子育て環境）</p>	意見集約シート
40	<p>【その他、意見について】</p> <p>各分野から委員は選出されているのですから、分野毎の意見交換の機会を持つことで新たな気づきを生み、反映されるのではと考えます。</p>			<p>【その他】</p> <p>ビジョン懇談会については、各分野の皆様との専門的な協議を行うことよりも、圏域をどのようにしていくか幅広くご意見をいただけるよう全体会議としてます。</p>	意見集約シート
41	<p>【圏域の将来像】</p> <p><u>「成年後見支援センター機能の広域活用」</u></p> <p>中心市の成年後見支援センターが行う市民後見人養成講座や研修会等を圏域内市町村に範囲を拡大してもらえないか。</p> <p>（現状）</p> <p>認知症、知的・精神障害などにより、判断能力が低下しても住み慣れ地域で安心して暮らし続けられるよう成年後見人制度や日常生活自立支援事業が進められています。</p> <p>本制度は、今後、さらに高齢化が進むことにより、ますます必要になってくると考えられています。市町村では、これら制度を活用するために支援を行う「成年後見支援センター」を立ち上げて対応しているところが増加し、将来に向けた市民後見人養成講座や研修会等に取り組んでいます。</p> <p>しかし、現状、過疎地域（市町）では、将来、親族の後見人等に関連する可能性のある人も少なく、地域で後見人養成講座や研修会等を開催するとしても必要とする受講者は極少で、さらに講師となる法律関係者、介護福祉士、施設職員などの専門講師を単独で確保する経費負担についても大変難しい状況です。</p> <p>※個別の相談や制度活用に至るまでの総合的な支援は、事情を把握している市町村、又は社協で行うべきと考えています。</p>		福祉		意見集約シート

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
42	<p>【圏域の将来像】</p> <p>人口の流出を食い止める方策として、の観点ではないが、成長した子どもたちを呼び戻す一つの方策として“<u>夢ある郷土と家族愛</u>”と題して本圏域の良さを見直す。</p> <p>“夢ある郷土と家族愛”のために 心を育む教育（幼児、小中学校、高等学校）は大切かと思う。幼いときから郷土愛を育み、心を育む教育環境が必要と感じる。本圏域は<u>魅力溢れる自然環境地域でありながら、住民や大人、こどもはその素晴らしさに気付かず過ごしているのではないか。</u>子どもたちは大学、専門教育で、都会や他の地域にと、一旦は故郷を離れるが、地元の素晴らしさや家族のつながりを十分体感、経験していればUターンに繋がるのではと考える。働く場所は会社や工場や施設ばかりではないことも、幼いときから大人は教えるべきではないか。山、川、花、動物、昆虫、料理、スポーツ、音楽、映画、絵画、工作、作物を育てるなど、好きなものを子どものころから考える時間や体験を学校で、家庭で、地域でつって欲しいと思う。その好きなものが将来の職業や郷土愛とつながれば素晴らしいと思う。</p>	地域 の強 み		<p>【修正】</p> <p>将来像に反映 (地域の強み)</p>	意見集約シート
43	<p>【圏域の将来像】</p> <p>もう一步前向きに「明るい地域の将来像」が描けないか、具体的取組を講じることが出来ないか考えたい。</p> <p>1. 「圏域の将来像」について 「地域特性をいかす」視点</p> <p>■<u>中空知地域は、日本の中でも地震や風水害などの災害が非常に少なく、四季がはっきりした気候で美しい山河や自然を有する地域です。</u></p> <p>■<u>医療や福祉サービスの充実、公共インフラの整備が図られており、だれもが安全で安心して住み続けられることのできる地域です。</u></p> <p>■<u>こうした特色を活かし、人口が少なくなっても高齢化社会であっても、だれもが健康で幸せに暮らすことのできる地域として、地域住民の定住とUターンを積極的に受け入れます。</u></p> <p>■<u>また、これまで一部事務組合や広域連合で行政事務の効率化を積極的に進めてきており、この定住自立圏を契機に、より一層自治体間の連携や事務の共同化を進め、行政コストの低減に努めます。</u></p> <p>■そのほか、キーワードとして 「国際化」 「冷涼な気候を活かし、美味しい米を中心とした農産物の生産」 「かつて日本のエネルギーを支えた産炭地域」</p>	地域特性、 地域の強み、 人口定住、 自治体間連携、 産業振興		<p>【修正】</p> <p>将来像に反映 (地域特性、地域の強み、人口定住、自治体間連携)</p>	意見集約シート
44	<p>【圏域の将来像】</p> <p>地域公共交通について</p> <p><u>バス路線については、中心都市にハブステーションを設置し、そこを軸として各圏域市町村間路線を運航し、各市町村は必要な地区内路線の運行を行う等、新たな発想で検討してはどうか。</u></p>		地域公共交通		意見集約シート

項番	意見	将来像	具体取組	事務局としての考え方	提出方法
45	<p>【その他、意見について】</p> <p><u>圏域内の高齢者コミュニティー広場等の設置を図り、交流を深め学習意欲の向上を図る。</u></p> <p>例) 芸能、スポーツ、文芸等の趣味の共通話題</p>	高齢化対策		<p>【修正】</p> <p>将来像に反映 (高齢化対策)</p>	意見集約シート
46	<p>【圏域の将来像】</p> <p>定住自立圏構想について</p> <p>滝川、砂川市は中心市としての役割から <u>5市5町の自治体の特色を生かした公平な構想</u> をたてることが基本である。</p> <p>「甲乙ともに喫緊な課題」</p> <p>1. 一次産業政策</p> <p>圏内には立派な農地が作付されず休耕田となっている。食料の安定確保は生きるのに不可欠であり <u>農畜産業の安定推進、後継者育成、生活環境の整備</u> が急務である。</p> <p><u>生産製品は圏域での地産地消を原則に安心安全な食糧の確保を推進する。</u></p> <p>2. 雇用</p> <p>企業誘致政策は過去の実績から限界であり既存の <u>地元企業の育成とともに雇用創出の条件的支援を行う。</u></p> <p>働く場の確保は自治体の責任とも考える。</p> <p>3. 福祉</p> <p><u>高齢者、特に老老介護者、独居老人対策</u> は急務であり生活には危険も伴っている。</p> <p><u>老人施設の拡充を図り要介護の老人は希望により公的施設に受け入れ所得に応じた利用料金で対応できるよう拡充する。</u></p>	地域特性・地域の強み、産業振興、雇用促進、高齢化対策	福祉		意見集約シート

下線：将来像関連箇所

二重線：対応について検討・協議が必要

修正：案を修正するもの
 既記載：既に案に盛り込んでいるもの
 参考：今後の参考とするもの
 その他：意見として伺ったもの